

DU WATCH

劣化ウラン研究会ニュースレター 第17号 (2006/8)

-----[はじめに]-----

劣化ウラン研究会も参加をした国際会議「劣化ウラン兵器禁止を訴える国際大会」が8月3日から6日まで広島市の国際会議場で開催されました。秋葉忠利広島市長や福島瑞穂社民党党首も参加をし、劣化ウランの廃絶と核も戦争もない世界の実現を改めて被爆地に誓い、具体的な議題に入りました。その報告を冒頭に掲載します。

全体の参加者は300名にのぼり、これまで2度開かれてきたICBUWの会議としても最大のものとなりました。

被爆地ヒロシマで、かつ原爆投下の日を含む会議であったことや、在日米軍を通じてのアジアの問題も浮き彫りになるなど、ヒロシマで開催した成果は思ったよりも遙かに大きなものとなったと思います。

8月3日～6日

ヒロシマから世界へ 届けよう「劣化ウランヒバクシャ」 の声を！

報告者 劣化ウラン研究会 山崎久隆

8月3日 第1日

ロザリー・バーテルさんの記念講演から始まったICBUW主催「劣化ウラン兵器禁止を訴える国際大会」は、初日から厳しい現実を見せつけるものでした。

第一セッションでイラクの被害を報告したジャワード・アル-アリ医師は「イラク南部の疫学的研究」として、2005年までの疫学的調査を元に、イラク南部で広がる症状を報告されました。白血病や小児がんよりも乳ガンが比較的多くなっているという点に意外な思いがしました。どのような経路で多くなるのかは、これからの課題です。

スアード・アル-アザウィさんは「イラクにおける劣化ウランによる放射能汚染」カジャック・ヴァルタニアンさんは「バスラにおける環境に対する放射能汚染」として、主に環境放射能の増大という面から現状の報告をされていましたが、ヴァルタニアンさんの測定技法について京大原子炉実

験所の小出裕章さんから質問と意見がだされてきました。

小出さんの質問要旨は、ヴァルタニアンさんのデータに「ウラン235とウラン238の比率から劣化ウランと断定しているところがあるが、質量分析器のような精密装置が無い中では正確な値にはならない、ヴァルタニアンさんの測定は高く評価するからこそ、正確な測定ができるように取り組んでほしい」というものでした。

第二セッションでは米国や英国の帰還兵士が証言を行い、米国内の演習場や兵器工場に対する取り組みをしている人たちからも報告がありました。

デニス・カインさん、ハーバート・リードさんは帰還兵士です。特にハーバート・リードさんはニューヨーク第442憲兵中隊としてイラク・サマーワに派遣され、劣化ウランに被曝をしています。自衛隊が派遣される前に、すでにサマーワでの被曝を経験していました。その後、同じ部隊で派遣されたジェラルド・マシューさんら7名とマシューさんが帰国した後に生まれたビクトリアちゃんとともに劣化ウランの危険性を事前に警告

し対策を取らなかったことで訴えを起こしていません。

ダマシオ・ロペスさんは「無視された医療ケアへの権利」として、彼が住んでいた地域のすぐそばにあった射爆場の周辺での被害などを報告し、グレーテル・マンローさんは「米国における劣化ウランをめぐる諸問題」として兵器製造工場周辺住民の活動、帰還兵の医学検査などを州政府に求める運動を紹介していました。

8月4日 第2日 午前

第二日は午前中は科学セッションが行われました。

主な発表者は元WHOの放射線被曝問題の責任者で、フィンランド・クオピオ大学教授のキース・ベイヴァーストックさんが「劣化ウランは人々の健康にとって有害か」、ドイツのハイケ・シュレーダーさんが「帰還兵の抹消リンパ球の染色体異常—試験的分析結果」、A. MガッティとSモンティナーリさんが「戦争による汚染と人体・動物のナノ病理学」としてそれぞれ研究発表を行いました。

ベイヴァーストックさんは劣化ウランが兵器として使用されたときだけに典型的に現れる「部分的に可溶性の酸化ウラン粉塵」に注目します。これが全身に回る理由で、さらに可溶性であるため、重大な金属毒性を発揮し、さらにアルファ線源であることから、放射線被曝による発ガンなどの問題を引き起こすのですが、ここでは「傍観者効果・バイ・スタンダー・エフェクト」という概念を取り上げます。

バイ・スタンダー・エフェクトとは、放射線を浴びた細胞から特定の細胞毒性物質（質問に答えてベイヴァーストックさんはタンパクの一種と考えたと述べています）が放出され、その物質により周辺細胞12個程度の範囲も被曝したような被害を受けるというもので、新しい考え方による放射線の影響評価です。

また、劣化ウランには遺伝的毒性もあるのではないかという研究報告が、米軍の研究所から報告されていることも紹介されました。

劣化ウランは低放射性物質であるといっても、1ミクロンの粒子で毎時1回のアルファ崩壊があり、そのことと金属毒性効果を合わせて考える（つまり相乗効果）ならば、極めて危険な物質であり

一日も早い廃絶が求められると締めくくられました。

ハイケ・シュレーダーさんは帰還兵士のリンパ球の染色体異常を直接観察することで、劣化ウランの影響を考察しました。結論としては、帰還兵士のグループには50%ほど過剰な染色体異常が見られ、これは有意に高いと言えること、さらにこのグループは一般の医療用放射線を浴びることにより、染色体異常の無い人に比べて放射線感受性が高く発ガンリスクが増大することに注意しなければならないことも明らかにしていました。

一定の割合で誰でも発生する環状染色体異常と二動原体染色体異常は、その比率が高ければ発ガンリスクも同時に高まると考えられています。これは、原発労働者でも知られていることであり、劣化ウラン弾に被曝している兵士に、原発労働者と同様、有意に高い染色体異常が観察されるということは、それ自体が、劣化ウランの発ガンリスクが高いことを示すものであると考えることが出来ます。

ただし、シュレーダーさんによれば、対照群の取り方などで問題があり精密な疫学的調査にはなっていない点があるので今後の課題である旨の説明がありました。

A. MガッティとSモンティナーリさんは劣化ウランに限らず、戦場の汚染物としてのナノ粒子の問題を取り上げました。このナノ粒子は金属を含むもので、体内各所に入り込み、健康被害を引き起こす物質として注意が必要というものです。

特に劣化ウラン兵器が燃えるときに発生する粒子状物質は、生体適合性が無く、疲労原因になったりパーキンソン病の原因になったり、不妊を引き起こしたりするというのです。

トマス・フェイジーさんは「劣化ウラン被曝の評価」として、劣化ウランに暴露した後にどれだけ体内にあるかを特定することであるとして、ウラニウム測定に新たな方法を提案しました。これまではアサフ・ドラコビッチさんが行ったような尿を採取し検査することしか事実上方法がありませんでしたが、フェイジーさんは骨や歯を測定につかうことを考案、特に歯のウラン濃度を測定する方法を提案しています。

質疑応答の後、日本の参加者も討論者として加わりました。市川定夫さん（埼玉大学名誉教授）沢田昭二さん（名古屋大学名誉教授）そして小出

裕章さん（京都大学原子炉実験所）です。

市川さんは劣化ウランが高速炉「もんじゅ」のブランケット燃料として使われている例を挙げ、劣化ウランが戦略物資であり、核兵器級プルトニウムの製造にも使われることを指摘、核の「商業利用」があるから劣化ウランが生み出されることにも目を向けてほしいと訴えました。

沢田さんは原爆被爆者の認定訴訟において、低線量と言われる被爆者でも健康被害が出ていることを明らかにしてきたとし、現在の認定率が被爆者26万人のわずか0.8%に過ぎないことを指摘、黒い雨のように放射性物質が粒子状となって降り注ぎ、内部被曝が人々を蝕むと指摘しました。

小出さんは、天然に存在するウランのいろいろなところの濃度を指摘し、それによってもいくらかは影響を受けているからこそ、放射線の防護を定める法律では厳しく規制をしているのであり、ウランは劣化だろうと天然であろうと「危険」であることに異論の余地はないと指摘しました。そのうえで今後は、可溶性粒子の化学と放射性毒性の現れ方のメカニズムを解明し、環境や被災地のデータを蓄積し、疫学データを積み重ねる中で、解明を進めていかなければならないけれども、因果関係が解明されるまで劣化ウラン兵器が禁止されないとしたら、それは「遅すぎるのだ」と明確に指摘しました。

8月4日 第2日 午後

午後は第4セッションとしてヨーロッパからの報告です。

発表者はイギリスの湾岸戦争帰還兵士レイ・ブリストウさん、イタリアのジャーナリスト、ステファニア・ディヴェルティートさんと旧ユーゴスラビア派遣兵士で「オツセルヴァトリーオ・ミリターレ（軍事・治安およびイタリア国家警察関係者人権擁護団体）」のメンバーとして被害を告発するフィリップ・モンタペルト大尉が証言しました。特に現役兵士であるモンタペルト大尉が証言したことには米国の退役兵士から賞賛と驚きの声が上がっていました。

映像紹介としては、「埋もれた警鐘／旧ユーゴ劣化ウラン弾被災地をゆく」という広島ホームテレビの映像が紹介されました。また、Stop!劣化ウラン弾キャンペーンによる「旧ユーゴ劣化ウ

ラン弾被害報告」も、映像を使って報告しました。

おそらく劣化ウラン被害を受けたところがどうすればよいか、そのヒントはセルビア・モンテネグロ共和国やボスニア共和国の劣化ウラン被害地域の取り組みにあります。

除染活動を行う人々の献身的な努力は、イラクやアフガニスタンなど劣化ウラン被害を受けた地域にも同じように行わなければなりません。そのことを先駆的に示すレポートとなりました。

第5セッションは、いよいよ私たちアジア太平洋、韓国、日本、オーストラリアの運動紹介です。発表者は韓国からイ・シウ（Lee Si woo）さん「韓国と沖縄に劣化ウラン弾300万発が貯蔵」（これは別途紹介をします）コメントはピースリンクの湯浅一郎さんです。長年反基地平和運動に取り組んできた湯浅さんは、湾岸戦争時には米軍の動きを監視した結果などから、日本が米軍の世界戦略で無くてはならないキーストーンの役割を果たしていることも指摘、この広島も被爆地という面だけではなく、米軍の事前集積備蓄基地として機能していることも指摘し、劣化ウラン兵器の貯蔵疑惑が消えないことを、岩国基地や秋月弾薬庫の例を挙げて述べていました。

日本の市民運動の動きとしては、劣化ウラン兵器禁止・市民ネットワークが対防衛庁・対外務省交渉などを紹介、さらに日本の原発推進機関である原子力文化・振興財団が行った「劣化ウランの危険性は無い」というプレスリリースへの抗議、申し入れ行動を紹介しました。さらに、劣化ウラン廃絶のために出来るだけ多くの市民に存在を知らせ、廃絶への声を上げてもらうように取り組んできたことも紹介しました。

NO DU ヒロシマ・プロジェクトの森瀧春子さんは、映像も使ってイラクでの劣化ウラン被害調査のもようを紹介していました。

子どもたちが死に行く中で、医療支援をどのようにしていけるのか、森瀧さんは重い課題を持ち帰ることになりました。

オーストラリアの映像作家デイヴィッド・ブラッドベリー監督は、自ら制作したドキュメンタリー「風に吹かれて」のダイジェスト版を紹介しながら、オーストラリアの米軍演習場周辺での被害などへの取り組みを紹介しました。

報告者 STOP 劣化ウラン 弾キャンペーン 横澤典子

8月5日 第3日 分科会

8月5日は分科会で会場は袋町交流プラザ。午前は特別セッションで「ヒバクシャとの交流」。午後は第6セッション「キャンペーン2/ 禁止条約実現にむけての戦略」、第7セッション「科学的問題をめぐる討議」、第8セッション「キャンペーン3/ 被害者支援」が開かれました。全体会議に引き続き海外からのゲストも参加し、午前中は100名前後が参加してヒロシマのヒバクシャの話を聞きました。私は特別セッション、第6セッションに参加したので、おもにその報告をしたいと思います。

特別セッションでは、高橋昭博さんと松島圭次郎さんが自分のヒバク体験を語りました。

医者でもあり、原爆投下後に恋人や友人を探すためにヒロシマに入った丸屋博さんは、自分の体験とヒバクした在日韓国人の支援を行っていることなどを話してくれました。2002年にイラクからアル・アリ医師が来日したとき、イラクでは劣化ウラン兵器が使用されてから10年後に肺がん等の発病率があがったと聞きいたそうです。広島では、原爆投下後20年後位から肺がん等の発病率があがったとのこと。広島とイラクの違いはウランの重金属毒性の影響ではないかと言っていました。前日にヒバクシャ側が全面勝訴した原爆認定集団訴訟世話人の渡辺力人さんは、内部被曝が裁判で認められた画期的な判決だと興奮気味に語ったことが印象に残りました。

ヒバクシャの発言をうけて、退役准尉で英国陸軍野戦病院医療部隊外科手術チームに所属していてヒバクしたレイ・ブリストウさんは、日本のメディアが取材に来ることが多い訳がわかったと感想をいい、湾岸戦争帰還兵のデニス・カインさんはアメリカ人として原爆投下を謝罪し、広島で60年前に起きたこと（ヒバク）は1990年湾岸戦争でも起きたと、核兵器や劣化ウラン兵器の廃絶を訴えました。

第6セッションでは劣化ウラン兵器禁止条約実現にむけての話し合いが行われました。

劣化ウラン兵器をめぐる様々な取り組みや問題

などを確認しあいました。

司会はタラ・ソーントンさん（ICBUW評議員）とマンフレット・モーアさん（ドイツ赤十字の法律専門家・ICBUW評議員）と嘉指信雄さん。

マンフレット・モーアさんは、劣化ウラン兵器の使用が違法であることはハーグ条約やジュネーブ条約の範囲内で主張はできるが、劣化ウラン兵器禁止や除染については条約法が必要と主張しました。UWBAN（ウラニウム禁止条約キャンペーン）は国連人権小委員会に出席してアピールしたことなどを発表しました。

参加者からも、禁止条約実現にむけた意見が活発に提案されました。禁止条約の決議案を上程する国の選出（スポンサーの国選び）。地雷廃絶キャンペーンやNGOとの連携などが提起されました。ダマシオ・A・ロペスさん（国際DU研究チーム代表）は、禁止条約を作ることも大事だが、草の根的に人々に劣化ウラン兵器の話をして組織化することも同じくらい大切なことと提起。これからも劣化ウラン兵器廃絶に向けて、各国のNGOが力をあわせていこうということと、いい案があったらICBUW評議員に提案してほしいということが確認され、拍手で閉会しました。

ニュースクリップ

沖縄タイムス

2006年8月3日（木）朝刊3面
嘉手納にウラン弾40万発01年数量判明は初

米空軍嘉手納弾薬庫地区内に二〇〇一年当時、約四十万発の劣化ウラン弾が保管されていたことが二日、米国の情報公開法に基づく、米空軍の公開資料で分かった。嘉手納基地は二〇〇〇年五月に同弾薬庫内での劣化ウラン弾の保管を認めていたが、具体的な量が明らかになったのは初めて。現在も保管されているかどうかについて防衛施設庁は「米軍は弾薬の数や移動の有無を一切、明らかにしていないため、把握していない」としている。

県の花城順孝知事公室長は「情報公開を求め、事実関係を確認した上で対応する。劣化ウラン弾にかかる管理の徹底と適切な処理を日米両政府に

求めていきたい」としている。

三日から広島市内で開催される「ウラン兵器禁止を求める国際連合」(ICBUW) 第三回国際大会で、韓国の平和運動家で写真家のイ・シウさんが報告する。

ICBUWの嘉指信雄広島大会実行委員長によると、〇一年二月、米国フレンズ奉仕団ハワイ支部のカイル・カジヒロ幹事が米国の情報公開法に基づき、ハワイの米太平洋軍司令部に米軍基地の劣化ウラン弾に関連する全記録の公開を申請。

米太平洋空軍は〇三年八月、「ハワイなどの米国領内には劣化ウラン弾を保管していない」と回答した上で、嘉手納基地のほか、韓国のおサン、スウォン、チョンジュの三空軍基地に貯蔵していることを認めたという。

沖縄タイムス社説
(2006年8月4日朝刊)
【劣化ウラン弾】
貯蔵基地にしてはならぬ

米軍嘉手納弾薬庫に二〇〇一年当時、約四十万発の劣化ウラン弾が保管されていたことが米国の情報公開法に基づく米空軍の資料で分かった。

さらに、米太平洋空軍は〇三年八月「ハワイなどの米国領内には劣化ウラン弾を保管していない」と述べ、嘉手納のほか韓国のおサン、スウォン、チョンジュの三空軍基地に貯蔵していることを明らかにした。

二〇〇〇年五月、当時の嘉手納基地第一八航空団のジェームス・スミス司令官は、同弾薬庫にある五百八十カ所の倉庫の一カ所に劣化ウラン弾が貯蔵されていることを認めていたが、具体的な貯蔵量が明らかになったのは初めてである。

劣化ウラン弾は、対戦車用に開発され、湾岸戦争で初めて実戦に使われた。その量は、約八百トンに上るといわれている。

放射性物質の影響で、帰還米兵に白血病やがん発症率が高い。イラクでも、劣化ウラン弾で被爆し白血病に苦しむ子どもたちが年々増え続けている。

その劣化ウラン弾が、沖縄や韓国で保管され、

湾岸戦争で使われた可能性が今回の情報公開資料で極めて高くなった。

しかし、米国は帰還米兵の奇病を劣化ウラン弾が原因とすることを認めていない。ウラン濃縮の過程で出る低レベルの放射能物質でつくる劣化ウラン弾は「核兵器ではない」とも主張している。

嘉手納弾薬庫への貯蔵を明かしたのも日本の「非核三原則」に抵触しない、との判断からだろう。

ただ、現在も嘉手納弾薬庫に保管されているかどうかについて、防衛施設庁は「米軍は弾薬の数や移動の有無を一切、明らかにしていないため把握していない」としている。

県内では米軍が空対地射爆撃訓練を実施している無人島の鳥島射爆撃場で、米海兵隊が一九九五年十二月から翌九六年一月にかけ、千五百二十発の劣化ウラン弾を誤って使用し、その存在がさらけ出された。

当然今も、保管され続けているものと疑ってかかるしかあるまい。

嘉手納弾薬庫は、イグルー(覆土)式の倉庫が数多く、核兵器を取り扱う能力を持つ第一八航空団所属の第一八弾薬中隊も配備されている。

嘉手納弾薬庫に核を扱える部隊や施設がある以上、劣化ウラン弾とともにNBC(核・生物・化学)兵器も貯蔵されている疑いは尽きない。

沖縄を「核の貯蔵基地」にしないために県は、事実関係を検証していく義務がある。

NHKが劣化ウラン特集番組を制作・放映
NHKスペシャル
「調査報告・劣化ウラン弾 ～軍関係者の告発～」

NHKは今年の8月6日に劣化ウラン被害を訴える米軍帰還兵や劣化ウランの危険性を警告し廃絶を求める元米軍少佐ダグ・ロッキー氏などを紹介する特集番組を制作し放送しました。

制作したのはNHK広島支局の小山大祐ディレクター、元ニューヨークの第442憲兵中隊所属のジェラルド・マシューさんやその家族も登場します。

以下は、NHKのホームページの番組紹介文です。

核廃棄物から作られ、極めて安い値段で高い効果を上げる兵器「劣化ウラン弾」。

イラクやコソボなどの戦場の周辺住民たちの中には、ガンや白血病、先天性異常などに苦しむ人が増えている。その一方、劣化ウラン弾を大量に使い続けてきた米軍は「病気の原因となる科学的な根拠は見つかっていない」として、その危険性を否定し続けてきた。

しかし、最近になって米軍の内部からその危険性を訴える告発が相次いでいる。米軍の調査に協力したある科学者は劣化ウランに被爆した兵士の遺伝子に異常があることを突き止め、その事実を公表した。「劣化ウラン弾調査班」の班長を務めていた元陸軍少佐は、劣化ウラン弾による環境汚染を測定した内部のデータを初めてNHKに対して明らかにした。

また最近、劣化ウランの発ガン性や毒性などを示す科学的な研究報告も相次ぎ、米軍の主張は揺らぎ始めている。

番組では、米軍の劣化ウラン弾関係者への調査報道によって、長年、軍が隠し続けてきた劣化ウラン弾の実態を明らかにする。そして人命より経済性、軍事力が優先される米軍の深い闇を浮き彫りにする。

ICBUW国際大会で韓国のイ・シウさんが報告した劣化ウラン貯蔵・紛失問題は、昨年韓国でも話題になっていました。そのことを伝えるニュースを英文から訳して紹介します。

コリア・タイムスより
在韓米軍は劣化ウランを紛失
2005年12月23日

訳 山崎久隆

市民運動の活動家に寄れば、在韓米軍は人間の健康と環境に対して影響を与える可能性がある劣化ウランを約270万発所有し、そのうち約24,000発(ママ)が行方不明の状態であると主張している。

2005年12月19日にインターネット通信Tongilnews.comへの論文で、反戦活動家で写真家のイ・シウ氏は、ハワイで米国太平洋司令部より機密指定解除された書類を調べた結果、米軍が韓

国などに270万発以上の劣化ウラン兵器を貯蔵していることが分かったと述べている。

2003年8月付の文書によれば、京畿道の水原(スウオン)空軍基地に約1,300,000発、忠清北道の清州(チョンジュ)空軍基地に約930,000発、京畿道の水鳥(オサン)空軍基地に約470,000発である。

全体的に、日本の沖縄県にある嘉手納空軍基地で貯蔵していると言われていた約300,000発と比べると8倍にあたる。

イ氏は、アメリカ・フレンズ奉仕団(AFSC・平和運動を行っている米宗教団体)のハワイ代表カイル・カジヒロ氏から文書を手に入れたと語った。カジヒロ氏は既に2001年2月に米太平洋軍司令部に対し、米国情報自由法(FOIA)に基づき劣化ウラン兵器に関する情報公開請求を行っていた。

イ氏は、空軍基地に関する他の書類を引用しながら米軍が劣化ウラン兵器約28,000発を紛失したと考えられると主張する。劣化ウランは核燃料および核兵器生産の副産物であり、人々への放射性傷害および環境破壊を引き起こす恐れがある。

民主労働党(DLP)は韓国政府に対して劣化ウラン弾の貯蔵などに対する徹底的な調査を行ない、米国に対して劣化ウラン兵器の撤去を求めることを要求している。

在韓米軍報道官は、在韓米軍が軍の公開していない施設等に現在どれだけの劣化ウラン弾を保有しているのかを回答することは拒否し、失われた劣化ウラン兵器の存在を主張するイ氏の抗議を退けた。

「それは本当であるが、目新しい話ではない。在韓米軍は緊急事態に備えて兵器を保有している。けれどもそれらは、軍事演習でさえも一度も使われたことがなく、私が考えるには、それが失われたということ信じ理由がない。」と在韓米軍社会問題オフィスでキム・ヤングキューは韓国タイムズに語った。

キムは韓国政府が在韓米軍により既に問題を知らされていたと付け加えた。

(以下劣化ウラン弾の簡単な説明部分2センテンスを省略)

なお、イ・シウさんのICBUW報告によれば、スウオン基地の劣化ウラン弾は1,360,181発、チョンジュ基地は933,669発、オサン基地には445,015

発または 474,567 発で、嘉手納基地には 398,768 発であるという。さらに失われた劣化ウラン弾は 24,696 発と推定され、オサン基地であるという。

(大会報告集予約) と記入してください。

現地実行委員会事務局長 森瀧 春子

ICBUWからのあいさつと 報告集の予約案内

みなさま

「NO DU 劣化ウラン兵器禁止を訴える国際大会」開催に当たりましては、皆様のご協力ご尽力によりまして、多くの国内外の参加者を得て、充実した内容と展望のある大会となりました。心からお礼申し上げます。

NODU 国際大会広島現地実行委員会事務局として、遅くなりましたがとりあえずのお礼を申し上げます。

長崎・福岡での諸行動に参加された海外代表の皆さんも、本日すべて広島から送り出したところです。

内外参加者数は海外からの参加者 40 数名を含め約 300 名に上りました。

50 件を超えるプレゼンテーションを受けての 4 日間にわたる討議はまだまだ時間が足りないほどの内容だったと思われませんが、これから総括を行っていきたいと思っております。

大会の様子をとりあえず垣間見ていただくには、すでにお知らせしておりますように「NODU ヒロシマ・プロジェクトのホームページの

<http://www.noduhiroshima.org/icbum2006/>

の動画発信

<http://eclectic.la.cocacn.jp/icbum/>

をご覧ください。

これから後まともに入るわけですが、国際大会の報告集作成は来年 1 月を目指して取り組みます。1 冊 2000 円ですすでに大会期間中より予約受付を始めていますが、これより後の予約は下記宛てに郵便振込みにてお願いいたします。

郵便振替口座名 I C B U W ・ 国際キャンペーン
口座番号：01310-0-83069

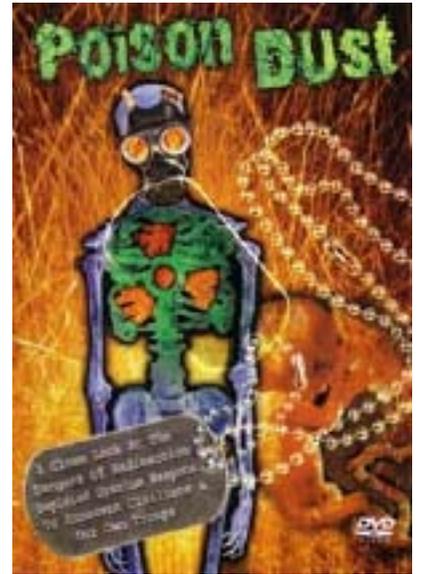
ポイズン・ダスト

日本語版

販売開始のお知らせ

劣化ウラン研究会

劣化ウラン研究会では、先のイラク戦争を中心とした劣化ウラン被害告発ビデオ/DVD 「ポイズン・ダスト」(オリジナルの著作・製作は米国の NGO インターナ



ショナル・アクション・センター) の日本語版製作を計画しました。

2006 年 5 月 5 日に、皆様のご協力により制作元のビデオプレスより販売が開始されることとなりました。

この原作は、国際行動センター(創立者は元アメリカ合衆国司法長官ラムゼー・クラーク)が作成した DVD 「Poison DUst」(上映時間約 90 分) ですが、皆様の活動に利用していただくために、劣化ウラン被害関連に絞って約 30 分に再構成し、日本語の字幕をつけ、せりふを日本語にふきかえました。

注文は劣化ウラン研究会(たんぼぼ舎気付け)までどうぞ。

本の紹介

世界は変えられる

J C J 日本ジャーナリスト会議

市民メディア賞受賞

TUP が伝えるイラク戦争の「真実」と「非戦」

TUP : Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳者たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 240 ページ

ISBN4-8228-0480-1

世界は変えられる II

— 戦争の被害者って? 加害者って? —

TUP : Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳家たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 288 ページ

ISBN4-8228-0489-5

イラク占領と核汚染

森住 卓 = 写真・文

A5・160 ページ(写真 96 ページ/文章 64 ページ)

2005 年 8 月 6 日発行

本体価格 2000 円 ISBN4-87498-347-2

米英軍のイラク攻撃は、イラクの人々に何をもたらしたのか!? イラク戦争開戦前夜から占領下を含め通算八回、イラク各地を取材。

軍事占領と劣化ウラン弾、イエローケーキなどによる放射能に苦しむ人々の姿を、鮮烈な写真と文章で伝えるフォトドキュメント!

<http://www.morizumi-pj.com/>

「放射能兵器・劣化ウラン — 核の戦場・ウラン汚染地帯」

劣化ウラン研究会編、技術と人間社発行

2003年3月 定価2500円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町3-16

TEL:03-3260-9321

FAX:03-3260-9320

「ボクは死ぬんだ。死んでしまうのだ。」イラクの小児病棟では連日、血を吐きながら子どもたちが死んでゆく。劣化ウランは史上最悪の大量殺りく兵器である。この兵器を使用しているかぎり、人類だけでなく、地球上の生きとし生けるものに未来はない!

< 主要目次 >

第1章 危険な劣化ウラン弾

第2章 劣化ウランの軍事転用

第3章 核燃料サイクルと劣化ウラン

第4章 身近にあらわれる劣化ウラン

第5章 劣化ウランおよび劣化ウラン兵器

廃絶運動

< 著者紹介 > (50音順)

伊藤政子 アラブの子もとなかよくする
会代表

新倉修 青山学院大学法学部教授

野村修身 電磁波問題市民研究会代表

藤田祐幸 慶応義塾大学物理学教室助教授

森住卓 フォトジャーナリスト

矢ヶ崎克馬 琉球大学理学部教授

山崎久隆 劣化ウラン研究会代表

劣化ウラン兵器を

造らせない 持たせない 使わせない

劣化ウラン研究会

〒176-0002 東京都練馬区桜台1-3-5 野村方 TEL: 03-3238-9035(たんぽぽ舎)

E-mail: zt4h-ymsk@asahi-net.or.jp (山崎) URL: <http://www.jca.apc.org/DUCJ/>

入会方法: 通信欄に住所・氏名・電話番号・Eメールアドレスを明記して、

年会費(個人2000円・団体4000円)を下記口座へお振込みください。

郵便振替口座 00100-2-155130 劣化ウラン研究会